

当面のスローガン

- 本年こそ「人権侵害救済法」を制定させよう!
- 狭山再審闘争の勝利をかちとろう!
- 続発する差別事件の糾弾を徹底しよう!



発行所
解放新聞和歌山支局

〒640-8314
和歌山市神前 405-3
TEL 073-473-2301
FAX 073-473-2302

発行責任者
松本貞次



中澤委員長を偲び、多くの人が参列した

多くの参列者にみまもられ

昨年11月23日に逝去した中澤敏浩・執行委員長を偲ぶ会が5月14日、和歌山市民会館小ホールでひらかれ、各界各層から約700人が中澤委員長を偲んで参列した。

主催者を代表して、松本貞次・委員長代行は「中澤委員長は突然の訃報に、私たちはなすすべもなく茫然自失の状態でした。委員長は、部落解放運動に生きた人でした。そして、大きな存在でした。第23回大会で委員長に就任してから、広範な人とも共闘し、実行委員会や和歌山人権研究所の設立を果たし、途絶えることのない多くの人に囲まれた人でした。委員長は多く



瀧口秀光・企業連理事長



松本貞次・委員長代行

の人が認めるよう、おしゃべりな人でした。そして、差別への憤りと青年期の情熱を燃やした人でした。委員長は私たちの永遠の人です。私たちは、委員長の思いをしっかりと受け継ぎ、委員長はじめ多くの先人がめざした「よき日」にむけ、さらにまい進する」と決意と参列者への謝意をのべた。



二階俊博・衆議院議員

◆中澤敏浩委員長略歴

- 1936年6月20日 杭ノ瀬に生まれる
- 1968年 杭ノ瀬支部長に就任
- 1969年11月 和歌山県同和地区企業連合会の結成にむけ奔走
- 1973年 杭ノ瀬支部長に就任
- 1974年8月 でっちあげの県連大会の強行を阻止し、県連機関を部落大衆に取り返す
- 1974年10月8日 県連第19回再建大会の中心的役割をはたし、副執行委員長に就任
- 1978年7月9日 県連第23回定期大会で執行委員長に就任

〈メッセージ〉

- ◆国会議員 石田真敏・衆議院議員、岸本周平・同議員、浮島とも子・同議員、世耕弘成・参議院議員、鶴保庸介・同議員
- ◆市町村長 寺本光嘉・紀美野町長、井本泰造・かつらぎ町長、平野嘉也・高野町長、上山章善・湯浅町長、小出隆道・上富田町長、田嶋勝正・串本町長
- ◆町議会 奥田誠・上富田議会
- ◆各種団体 裏野勝也・和歌山県平和フォーラム代表、神吉康成・(株)オークワ代表取締役
- ◆都府県連 橋本弘房・徳島県連

(順不同・敬称略)



組坂繁之・中央執行委員長

友人を代表して瀧口秀

めた映像では、ウィットにとんだ「中澤節」が流れ、中澤委員長の肉声を懐かしく聞き入った。

光・企業連理事長、組坂繁之・中央本部執行委員長、仁坂吉伸・和歌山県知事、二階俊博・衆議院議員、田上武・実行委員会会長からお別れの言葉が送られ、参列者が順に献花をして散会した。

頑健

先日の夜「大阪都構想」の是非を問う住民投票の開票速報に釘付けだった。結果は、1万あまりという僅差で「反対」が制し、大阪市の存続が確定した。冷静になると隣のことと和歌山市民の私には関係ないようなものであるが、そのなかにみえるモノを考えると無関係でいられない。「賛成」「反対」に票を投じた市民の意識は現状への危機感から複雑に揺れ動いたと思うし、まあ酷な話である。私は、市民の意識とは別に「都構想」のなかにみえる「効率」「経済的効果」という言葉に危機感を感じた。これは、行政の本質的な使命にかかわる問題である。「無駄を省く」ことについては大事と思うが、福祉・教育や人権は、そうした尺度に到底なじめない課題である。極端なことをいえば「非効率」だからこそ「行政の役割」なんだと思う▼さて、テレビで双方の陣営の悲喜もごもの発言が流されていたが「政治家をやめる」という橋下市長の弁を聞いて、橋下市長を「憲法改悪」へのパートナーと考えていた「安倍さん」の残念な顔が浮かぶ▼今回「大阪都構想」は消えたが、全国の自治体の「未来象」を描くという作業は、緊急の課題であることは間違いない。しかし、人権を基調とした「行政の本質的な役割」は普遍であることを忘れてはならないと思う。

(S・I)